令和４年度　三島市議会総務委員会視察報告書

１　視察日程

令和４年１０月３日（月）～１０月４日（火）

２　視察先及び調査事項

（１）愛知県あま市

新庁舎建設について

（２）静岡県島田市

新庁舎建設について

３　視察参加委員

委 員 長　　中村　仁

副委員長　　沈　久美

委　　員　　堀江　和雄

委　　員　　服部　正平

委　　員　　松田　吉嗣

委　　員　　川原　章寛

委　　員　　土屋　利絵

委　　員　　杉澤　正人

４　報告内容

次のとおり

【視察地ごとの報告】

１　視察先　　愛知県あま市

２　調査事項　　新庁舎建設について

（１）概要

あま市は平成２２年３月２２日に七宝町、美和町、甚目寺町の３町が合併してでき、合併以来、分庁・支所併用方式で行政運営を行ってきた。本庁舎、甚目寺庁舎、七宝庁舎の３つの庁舎に分かれていることで、市民サービスに様々な問題が起こっている。新庁舎はあま市の中心付近である主要地方道甚目寺・佐織線沿いの七宝地内を最適地として選定し、令和５年５月に供用開始が予定されている。

新庁舎のコンセプトは、

① 中枢防災拠点として市民の安心安全を守る庁舎

② 行政機能の拠点として市民が利用しやすい庁舎

③ 市民の交流拠点としてすべての人に親しみやすい庁舎

④ 環境と共生する、人にも自然にも優しい庁舎

⑤ ライフサイクルコストに優れた経済的かつ長寿命な庁舎

となっているが、あま市の特徴として、海抜０ｍ前後の平坦な低地が広がっており、南海トラフを震源とする巨大地震が発生した場合、津波等により被害を受ける可能性が高い。災害時の防災拠点として継続して機能する必要があるため、新庁舎敷地の前面道路からの嵩上げや、深層混合改良処理工法、静的締固め砂杭工法等を採用するなど、浸水や液状化に備えた工夫が見える。

また、自然採光・自然通風等を積極的に取り入れ、太陽光発電設備を導入しているが、中でも環境負荷の低減とコストの削減のため、地下水位が比較的高い特性を生かした地下水利用による空調システム導入の仕組みは特徴的である。

市民及び議会からの意見聴取については、基本設計段階において、市民ミーティングや基本設計委員会、パブリックコメントを実施し、市民説明会を６回開催

している。中でも、市民ミーティングでは、中高生を対象に２回、大人対象に２回、更に合同で４回行っており、その結果を提案ダイアグラムとしてまとめ、若い世代を始めとした市民意見を丁寧に聴取している印象を受けた。また、議員全員が委員となる新庁舎建設特別委員会が設置され、議会からの要望が整備内容に反映されているとのことだった。

議場については多目的に利活用できるフラットな床面とし、議員の椅子はキャスター付き、議場卓はすべて可動式であり、定数変更等によるレイアウト変更にも対応可能である。発言台は立位・座位と両方の使用ができ、車いす利用議員への配慮が感じられる。委員会室は独立した３室で構成し、異なる委員会が同時に開催できる。

また、傍聴席には小さいお子様連れでも傍聴が可能となる思いやりスペースを整備し、モニターで議会中継を視聴できるモニターを備えた議会ラウンジを設置し、多機能トイレを完備するなど、傍聴しやすくなるための工夫がされており、大変参考になった。

（２）所感

（中村委員長）合併を経て新庁舎の建設が必要となる。太陽光や地中熱を利用した省エネルギーは魅力的。地盤が悪く、改良のための杭打ちなどがかなり大掛かりで十数億円の規模。

コスト削減の声に対応すべく時間がかかり、工期が遅れ、今のコスト高にぶつかってしまった。タイミングは重要。

（沈副委員長）３町合併による市政施行から12年目の庁舎合併。３町の関係は良好で、市長に旧甚目寺町長、県議に旧美和町長、庁舎は旧七宝町内と分け合った。庁舎建設担当課長係長は建築畑ではなく人脈重視で文系職員を配置。この経緯に一長一短を感じた。駐車場450台。集約・市民呼び寄せ型。

（堀江委員）新庁舎建設のコンセプトに基本構想段階から市民ミーティング提案ダイアグラムなどにより、様々な意見を求め市民参加型の庁舎づくりを積み上げてこられた事を非常に重要なコンセンサスだと感じました。

（服部委員）将来にわたって持続可能な庁舎を目指すとし、配慮された省エネ対策。自然エネルギーの有効活用。地中熱利用の熱交換システム、太陽光発電システム、雑用水槽設置など防災拠点としても有効なものであると受け止めた。

（松田委員）議場を多目的に活用できるようフラットにし、思いやりスペースや議会ラウンジを設置するなど、開かれた議会になるような工夫が感じられる。また、地下水位が高いことを活かし、地中熱利用による空調システムを導入していることは参考になった。

（川原委員）床面のフラット化と可動デスクの採用による議場の利活用や閉庁日においても利用可能な会議室の配置、多様性に配慮したトイレの設置、地中熱活用による空調システムの導入、雨水の再利用等、参考になりました。

（土屋委員）合併してから、病院をたて、給食センターを建て、今度は市役所を新しく建てるのはいいのですが、既存の施設をなくすとやはり市民サービスが低下するとして、ほとんどが残されていることに驚きました。

（杉澤委員）浸水対策のための嵩上げ、地盤改良の工法の工夫など、参考とするものがあった。外観はシンプルだが、庁舎前広場などの整備がなされており、快適な空間が期待出来そうである。地熱利用の空調設備も先進的。

【視察地ごとの報告】

１　視察先　　静岡県島田市

２　調査事項　　新庁舎建設について

（１）概要

島田市の現庁舎は昭和３７年に建築され、建築後６０年経過している。耐震補強工事により、一定の耐震性能を有しているが、天井や各種設備の老朽化が課題となっており、毎年修繕費が８，０００千円/年程度必要となっている。平成１７年に金谷町､平成２１年川根町と合併し､庁舎の床面積不足も課題の一つである。

島田市現庁舎に隣接するプラザおおるりと健康福祉センターに行政機能の一部が分散されているような状況である。防災機能もおおるりに設置されており、災害時に業務が継続されるのか、懸念されている。

新庁舎のコンセプトは次のとおりである。

①　市民の安全・安心を支える庁舎

②　利用者にやさしい庁舎

③　経済的・効率的で環境に配慮した庁舎

千年に一度の浸水を想定した床レベルを設定し、１階の床を５０ｃｍ嵩上げしている。大地震でも業務が継続できるよう、基礎免震構造を採用し、災害対策本部をワンフロアに集約させている。

ユニバーサルデザインを取り入れ、事務机は可動式とし、サイドワゴンではなく、パーソナルロッカーを採用するなど、将来の働き方の変化に柔軟に対応できるような工夫が見える。

また、多目的トイレとは別に、親子トイレや少し広めの男女共用トイレを各階に設置し、誰もが自分に合ったトイレを選択できるようになっており、性の多様性への配慮がされている。異性の家族や介助者を同行する方にも利用しやすいような気配りも感じられる。

島田特有の西風を利用した自然換気を行い、中間期の冷暖房の削減を図っているほか、大井川によって形成された豊富な地下水熱を利用した床放射空調などの技術を活用することで、省エネルギーを推進している。共用部のように市民の目に留まる場所に、大井川流域産材を積極的に活用するとのことで、地場産品のＰＲに繋がる印象を受けた。

議場のバリアフリー化を図り、椅子は固定式とし、親子傍聴席も設置予定とのこと。これまでの市民意見の集約としては、学識経験者、各種団体推薦者、公募市民１３名からなる島田市役所周辺整備基本構想検討委員会を立ち上げ、８回の会議と５回のワークショップを開催し、多様な意見の集約に努めている。その後は平成３０年度に市民アンケート調査を実施し、パブリックコメントを実施している。

（２）所感

（中村委員長）風や光の取り入れ方、地下水を使った空調システムや、「ユニバーサルレイアウト」を採用した計画などは斬新。参考にしたい。三島市と同規模の市ではあるが　職員数が大きく少ないことが気になる。三島市には庁舎建設の前に、見直すべき点があるのではないか？と悩む。

（沈副委員長）現庁舎に隣接する敷地内への建て替え。跡地は駐車場になる。担当課長係長に建築の専門家を配置したことから、防災減災、環境、レイアウト、什器備品、性多様対応型トイレなど、随所にプロの配慮が伺える。駐車場170台。集約・市民呼び寄せ型といえる。

（堀江委員）職員の執務エリアを、組織改革に容易に対応できる「ユニバーサルレイアウト」を採用、自席に縛られる事なくパソコンで作業ができる。またサイドワゴンではなく、パーソナルロッカーを採用するなど画期的だと感じた。

（服部委員）建設の基本理念「人がつどい　文化がうまれ　まちがつながる　みんなの広場」とされ、新庁舎を拠点にその周辺エリアに目を向け、市民が集える魅力ある街づくりを構想され、環境面でも地下水利用の空調システム等学ぶ点があった。

（松田委員）新庁舎建設資金の財源は、あま市と同様、主として合併特例債・推進事業債・基金であり、合併の無い当市とはおかれている状況が異なると感じた。また昨今の資材高騰に対しては、基金の取り崩しにて対応するとのことだった。

（川原委員）遊休施設への書庫の配置による延床面積の縮減や可動デスク・パーソナルロッカーの採用による柔軟で効率的な執務スペースの創出、多目的・親子トイレの導入による多様性・混雑緩和への対応等、参考になりました。

（土屋委員）トイレへの多様性へのこだわりをとても大切にされていて、時代の変化を感じました。風を建物の中に取り入れたSDGsを考えたものになっていて、地域の特性を生かした建物になっていました。しかし、市役所を新たに作るということは本当にお金がかかるものだと思いました。

（杉澤委員）壁面の窓から風を取り込む仕組みが面白い。大きな吹き抜けから外光を取り入れる工夫、地下に雨水利用のピットを備えるなど、エコへの配慮が覗える。地元工業高校作成の新庁舎模型が素晴らしかった。